



## 学会誌への投稿案内

レーザーセンシング学会誌では、レーザーセンシングに関する研究・技術や最新の研究成果に関する、「論文」、「総説（レビュー）」、「小論文（レター）」、および「解説」記事を、会員・非会員を問わず随時応募しています。投稿に関する手続きや要件については、本号「学会だより」に掲載されている投稿規程および執筆要領を参照ください。また、学会ホームページ (<https://laser-sensing.jp/>) から投稿規程、執筆要領と共に執筆のためのテンプレートもダウンロード頂けます。学会誌は年2回（4月および10月）の発刊となっています。皆様の投稿をお待ちしています。

また、レーザーセンシング学会誌では、特定のテーマに対する「論文」、「小論文」、ないし「解説」記事をまとめた「特集」コーナーを定期的に設けています（これまでに発刊した「特集」については、学会誌バックナンバーを参照ください）。2022年10月発刊予定の第3巻2号では、ライダー・レーザーセンシング技術の産業応用に関する特集コーナーを予定しています。原稿募集の案内については、本号「学会だより」の「原稿募集 学会誌第3巻2号「産業応用ライダー（仮題）」」をご覧ください。本特集への投稿もお待ちしております。

---

---

## 学会誌第3巻2号「産業応用ライダー（仮題）」 特集への原稿募集

---

---

ライダーやレーザセンシング技術は、気象学、環境学、生物学、考古学などの自然科学の研究分野において重要な計測技術として位置付けられてきました。一方、近年ではその要素技術となるレーザーや光検出器等の小型化・低コスト化が著しく進み、自動車、医療、農業、地形・河川調査、エネルギー計画（太陽光発電など）、拡張現実（AR）など様々な産業分野へその応用が進められ、ライダー市場は2020年から2025年までに2.5倍にも膨らむとの試算もなされています。こういった潮流を踏まえてレーザセンシング学会では、ライダーの革新的技術の現状と将来性の検討を目的として、2020年に「産業応用ライダーに関するプロジェクト調査委員会」を立ち上げるに至っています。そこで本特集では、ライダーやレーザセンシング技術の産業分野への応用に関する最新の研究成果や実用化技術の問題点の解説など、幅広く特集することを目的としています。下記の要領で、論文、小論文、解説の記事を募集することになりましたので、ご案内いたします。皆様のご投稿をお待ちしております。

### 記

特集名（仮題）	「産業応用ライダー」
掲載予定号	第3巻2号（2022年10月刊行）
記事募集形態	論文、小論文、解説
記事のテーマ	ライダーやレーザセンシング技術を用いた産業分野への応用に関わる記事を募集します（応用技術の開発やその利用事例に関する研究論文、そして実用技術の解説など）
査読	投稿規程に沿い、通常通りの審査を行います。
投稿期限	2022年6月10日
投稿規程・執筆要領	本号「学会だより」にて掲載しています。もしくは、本学会ホームページを参照ください。
留意事項	査読審査の進行状況によっては、受理された論文が第3巻2号以降に掲載される場合があります。
問い合わせ先・投稿先	レーザセンシング学会編集委員会, email: lrsj-edit_office@laser-sensing.jp

以上

レーザセンシング学会編集委員会

## レーザセンシング学会規程

### 学会誌投稿規程

平成31 (2019) 年 4月10日 制定  
令和元 (2019) 年 7月17日 改訂  
令和 2 (2020) 年10月31日 改訂

#### (目的)

第1条 本規程は、レーザセンシング学会（以下、「本会」という）が、レーザセンシングに関する研究・技術や最新の研究成果を広く紹介するために発行する学会誌への投稿及び編集に関する基本的な事項を定める。

#### (名称)

第2条 本学会誌の名称を、レーザセンシング学会誌（以下、「本誌」という）とする。

#### (使用言語)

第3条 本誌の使用言語は、日本語又は英語とする。

2 本誌に掲載する記事等に日本語を使用する場合には、英文の題名と要旨を付するものとする。

#### (発行回数)

第4条 本誌は、年度毎に2回発行する。

#### (掲載記事)

第5条 本誌に掲載される記事は、本会の会則等に定められた本会の目的に合致するものとする。

2 本誌には、論文及び解説等を掲載する。  
3 論文は、新規性のある未発表の原著論文とする。

#### (著者の要件)

第6条 本誌への投稿については、著者についての制限は設けない。

2 すべての著者は、当該記事の内容全般について責任を負うものとする。  
3 論文の著者は、その作成に不可欠の貢献をした者に限るものとする。

#### (編集)

第7条 本誌の編集は、編集委員会が行う。

2 論文については少なくとも2名、解説等については1名の査読者による査読を行う。

#### (原稿の受理)

第8条 編集委員会が原稿を受理した日をもって受理日とする。

#### (費用負担)

第9条 本会は、記事の掲載に関し、著者に費用の負担を求めることができる。

2 費用負担の詳細については別途定める。  
3 編集委員会から執筆を依頼した記事については、費用負担を求めない。

#### (著作権)

第10条 本誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。

2 本誌に掲載される記事において、著作権の許諾が必要な転載等がある場合には、著者が予め当該部分の著作権者から利用許諾を受けておくものとする。  
3 同一の原稿あるいは内容が実質的に同じであると判断される原稿を、本誌と他の刊行物に重複して投稿することはこれを認めない。



(委 任)

第11条 この規程に定めのない編集の実施に関する事項は、編集委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成31（2019）年 4月10日より施行する。

平成31（2019）年 4月10日 制定・施行

令和元（2019）年 7月17日 改訂 第7条第2項修正

令和 2（2020）年10月31日 改訂 第9条第1項修正

## レーザセンシング学会誌執筆要領

### レーザセンシング学会誌編集委員会

令和3(2021)年4月1日制定・施行

令和3(2021)年9月30日改訂

#### 1. 言語

日本語または英語を使用すること。

#### 2. 原稿の作成と提出

- ① 本学会ホームページより A4 規格のテンプレートをダウンロードし、テンプレートを参考に作成すること。
- ② テキストは Word 形式のファイルを提出すること。査読者の便宜を図るため、ページ番号、本文に行番号を付けること。
- ③ 図は tif, jpg, PDF 等の形式のファイルを提出すること。画像の場合は 300 dpi 程度の高解像度で低圧縮又は無圧縮のファイルを提出すること。
- ④ 表は PDF 形式のファイルを提出すること。

#### 3. 論文等の長さ(目安)

- ① 論文：15,000 字～30,000 字
  - ② 総説：20,000 字以内
  - ③ 小論文：15,000 字以内
  - ④ 解説：20,000 字以内
  - ⑤ 図表に対応する文字カウント数は、標準的な大きさ、縦横比の図の場合で 400 字/個程度となる。
  - ⑥ その他は内容を十分に伝えることの出来る最適の長さとする。
- \*刷り上がり目安としては、2500 字程度/ページとなる。

#### 4. 掲載料

- ① 刷り上がり 1 ページにつき 2,500 円の負担とする。ただし、学会誌編集委員会から依頼された原稿については、掲載料は徴収しない。
  - ② 超過分(「3. 論文等の長さ」参照)の印刷については実費を徴収する。但し、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。
- \*会員・非会員の別やカラー・白黒の別はない。

#### 5. 論文等の構成

論文等の原稿は、次の順序で作成すること。

- ① 論文題名(和文)
- ② 論文題名(英文)
- ③ 著者名(和文)(連絡所者に\*を付すこと)
- ④ 所属および住所(和文)(英文原稿の場合は不要)
- ⑤ 著者名(英文)(連絡所者に\*を付すこと)
- ⑥ 所属および住所(英文)
- ⑦ 概要(英文, 150 語以内)(論文・総説(レビュー)・小論文は必須。その他の原稿は任意)
- ⑧ キーワード(4~5 ワード)
- ⑨ キーワード(英文)(4~5 ワード)
- ⑩ 本文(和文)

- ⑪ 謝辞（和文）
- ⑫ データ利用可能性（Data availability）（和文）
- ⑬ 研究費（Funding）（和文）
- ⑭ 利益相反の開示（Disclosure）（和文）
- ⑮ 引用文献
- ⑯ 付録（和文）
- ⑰ 著者紹介（和文）（各著者 300 字以内）
  - ・解説記事は、著者紹介用写真を投稿時に提出すること。
  - ・解説以外の記事は、著者紹介用写真を採録決定後に提出すること。
- ⑱ すべての図、写真、表
  - ・図、写真、表は本文原稿中に挿入せず、別のシートとして作成すること。ただし、文中に、図表の挿入箇所については記載すること。
  - ・脚注は原則として英語とする。
 なお英文原稿の場合は、上記の構成で、⑩～⑱を英文にすること。

## 6. 用字と用語

- ① 特殊な用語や略語が多用される場合は、参考文献の次に用語・略語の説明をまとめることが望ましい。
- ② 句読点は、句点「。」と読点「、」を用いず、「.」、「,」を用いる。それぞれ全角を用いること。（なお、参考文献リストおよび英文の場合は、半角の「.」、「,」とし、その後に単語が続く場合は、半角スペースをひとつ入れること。詳細は付録参照）

## 7. 見出しについて

- ① 大見出し“1.”など左つめ
  - ② 中見出し“1.1”など左つめ
  - ③ 小見出し“1.1.1”など左つめ
- これより下位のレベルは、著者の任意とする。

## 8. 図、写真、表

- ① 全ての図、写真、表は、本文中で引用すること。
- ② おおよその図表挿入位置を、本文中に、たとえば  
[Fig. 1]  
のように、明記すること。
- ③ 図表の中の用語および説明は、原則として英語を用いること。
- ④ 図、写真、表は、論文の最後にまとめること。
- ⑤ 図表の説明  
(例1) 表および図（カラーを含んで本文中に挿入する場合）  
表のとき：Table 1, Table 2, ....., Table 10,  
図または写真のとき：Fig. 1, Fig. 2, ....., Fig. 10  
カラー写真等で、本文中ではなく論文最後にまとめて掲載する場合：Plate1, Plate 2, ....., Plate 10  
(例2) 文章中の表現 ..... を Fig. 1, Table 1 および Plate 1 に示す。  
Fig. 1 Concept of laser sensing systems.  
Table 1 Summary of space-based active sensors.

## 9. 引用文献

- ① 引用文献の範囲  
原則として公開出版物の範囲に留めること。

② 引用の仕方

本文中の該当する箇所に半角で“1)”等の上つき番号を出現順に付けて引用すること。

③ 引用文献リストの書き方

引用文献リストは付録の形式を参考にして作成すること。著者が複数の場合も、原則として全著者の氏名(英語の場合は氏とイニシャル)を記入すること。英文論文標題中の単語については、文頭および固有名称などで必要な場合以外は小文字を使用すること。

④ 雑誌名の略記

通常、学術雑誌名は(特に英文雑誌などでは)かなり長いので、雑誌名の理解を妨げない範囲で略記を行なってよい。また編集段階において、学会側で略記形式に変更することがある。

⑤ 査読者が入手しにくい引用文献は、編集委員会の判断でコピーなどの提出を求めることがある。

⑥ ウェブサイトを引用する場合は、最終アクセス日付を(2020.8.1)のように記載すること。

10. 他誌から本誌に引用する場合の注意

① 引用する文献の著作権に十分注意すること。

② 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、著者の責任で事前にその著者および出版社の了承を得ること。

## 付録 引用文献リストの書き方(ガイドライン)

1. 雑誌

- 1) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻(号), 始め一終りのページ(年(西暦)).
- 2) 東京太郎, 大阪次郎, “レーザセンシング学会誌の書き方,” レーザセンシング学会誌, 18(1), 20-27(2018).
- 3) T. Tokyo and J. Osaka, “How to write LRSJ,” J. Laser Radar Sens. Soc. Japan, 18(1), 20-27(2018).

2. 著書, 編書

- 1) (編) 著者名, 書名, 発行所(発行年(西暦)).
- 2) 東京太郎(編), レーザセンシング技術辞典, レーザセンシング出版(2018).
- 3) T. Tokyo (ed.), Handbook of Laser Sensing, LRSJ Publ. Co. (2018).

3. 著書の一部を引用する場合

- 1) 著者名, “表題,” 書名, 編者名(発行所, 発行年(西暦)), 始め一終りのページ.
- 2) 大阪次郎, “レーザセンサ,” レーザセンシング技術辞典, 東京太郎編(レーザセンシング出版, 2018), pp. 145-250.
- 3) J. Osaka, “Laser Sensor,” in Laser Sensing Handbook, T. Tokyo, ed. (LRSJ Publ. Co., 2018), pp. 145-250.

4. 学会・会議

- 1) 著者名, “表題,” 会議名, 都市名, 国名, (年(西暦)).
- 2) 東京太郎, 大阪次郎, “レーザセンシングの研究手法,” 国際レーザーレーダーシンポジウム, 東京, 日本(2018).
- 3) T. Tokyo, and J. Osaka, “How to study laser sensing,” in Inter. Symp. on Laser Radar, Tokyo, Japan(2018).

5. 学会・会議論文集

- 1) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 巻(号), 始め一終りのページ(年(西暦)).
- 2) 東京太郎, 大阪次郎, “レーザセンシングデータの研究方法,” 第40回国際レーザセンシングシンポジウム, 18, 950-953(2018).



3) T. Tokyo, and J. Osaka, “How to study laser sensing,” Proc. 40th Inter. Symp. on Laser Sensing. 18, 950–953 (2018).

6. インターネットサイトの引用

- 1) 著者名, “標題,” URL (最終アクセス年月日)
- 2) 東京太郎, “レーザセンシングデータの研究方法,” <https://laser-sensing.jp/gakkaishi.html> (Accessed 2019.12.19)
- 3) T. Tokyo, “How to study laser sensing,” <https://laser-sensing.jp/gakkaishi.html> (Accessed 2019.12.19)  
(著者不明の場合は, 和文では「著者不明」, 英文では「Anonymous」とする)

7. 日本語での著者名に関する注意事項

姓と名の記述は, 次の例にならうこと: 東京太郎, 鈴木 正, 泉 宏治, 林 誠, 森信一郎, 山田洋一郎



## 会員数の状況

### 会員

(2021年9月1日現在)

正会員	89名
学生会員	9名
賛助会員	9社
名誉会員	9名(内正会員6名)

### 入会会員

(2020年9月1日から2021年9月1日まで)

正会員	9名
学生会員	8名
賛助会員	1社

### (正会員)

小林 啓二 (防衛装備庁)  
吉岐 航 (三菱電機(株))  
柿本 貴志 (埼玉県環境科学国際センター)  
高倉 理 (国立環境研究所)  
Xiafukaiti Alifu (千葉大学大学院)  
宮崎 達也 ((株)オキサイド)  
立野 亮 ((株)島津製作所)  
家澤 有基 ((株)ハイテック)  
花島 直樹 (デクセリアルズ(株))

### (学生会員)

山中 沙羅 (東京都立大学大学院)  
市原 涼太郎 (東京都立大学大学院)  
新井 達也 (東京都立大学大学院)  
Kuswan Isam Ebisawa (東京都立大学大学院)  
平間 圭悟 (東北工業大学大学院)  
本間 大成 (東京大学大学院)  
勝山 杜都 (東京大学)  
岸淵 航大 (東京都立大学大学院)

### (賛助会員)

ルミバード・ジャパン(株)